

第53期決算説明会資料

令和元年9月期

(平成30年10月1日～令和元年9月30日)

令和元年12月6日

決算概要

1. 活発な首都圏建設市場とバランスをとった企業体質の構築

最盛期となったオリンピック・パラリンピック関連工事

継続する再開発工事、インフラ整備工事と各地の災害復旧工事

営業体制と企業体質の強化

- 建設現場環境改善と省力化・効率化への提案営業
- 市場に合致した貸与資産への見直しと強化
- 前期より継続した整備拠点新設などの設備投資

2. 貸与資産の状況

(単位：百万円)

項目	2017年9月期	前期比	2018年9月期	前期比	2019年9月期	前期比
当期購入額（レンタル調達含む）	2,905	150.5%	2,665	91.7%	2,493	93.5%
減価償却費	245	128.9%	330	134.7%	499	151.2%
投下資本（期末保有高）	24,079	101.1%	24,675	102.5%	25,769	104.4%
回収率	23.2%	—	23.5%	—	24.1%	—
稼働率	62.7%	—	62.3%	—	64.5%	—

1. 投下資本（期末保有高）は、当社のレンタル用機械の保有高を取得価格ベースで表したものです。
2. 回収率は、当社の保有するレンタル用機械が1年間にどれだけのレンタル収入を計上したかを表しております。
3. 稼働率は、当社の保有するレンタル用機械が1年間にどれだけ稼働したかを表しております。

■ 損益計算書 ■



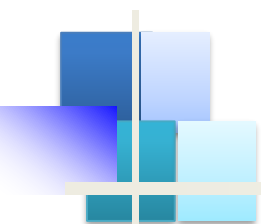
(単位：百万円)

	2017年9月期			2018年9月期			2019年9月期		
	2016年10月～2017年9月			2017年10月～2018年9月			2018年10月～2019年9月		
	金額	百分率	前期比	金額	百分率	前期比	金額	百分率	前期比
売上高	15,557	100.0%	105.7%	17,683	100.0%	113.7%	18,819	100.0%	106.4%
売上総利益	6,126	39.4%	97.8%	6,505	36.8%	106.2%	6,714	35.7%	103.2%
営業利益	1,422	9.1%	86.8%	1,546	8.7%	108.7%	1,550	8.2%	100.3%
経常利益	1,442	9.3%	87.5%	1,546	8.7%	107.2%	1,447	7.7%	93.6%
税引前当期純利益	1,462	9.4%	89.5%	1,546	8.7%	105.8%	1,447	7.7%	93.6%
法人税等	471	3.0%	82.6%	497	2.8%	105.5%	496	2.6%	99.9%
非支配株主に帰属する当期純利益	11	0.1%	100.0%	59	0.3%	509.9%	42	0.2%	70.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	979	6.3%	93.1%	989	5.6%	101.1%	908	4.8%	91.8%

(主な増減内訳)

(単位：百万円)

		(前期との差異)	(前期比)	
売上高	自社機レンタル収入	449	107.6%	東京都心部を中心にオリンピック関連工事が最盛期となり、関西地区においても堅調に推移しました。
	他社機レンタル収入	532	112.2%	自社保有機のレンタルに加え、幅広い需要に応えるため、他社からのレンタル機も伸びました。
	付帯収入(修理・運賃)	300	111.9%	レンタル収入が増加したことにより、修理・運賃収入も増えました。
	販売	△338	89.5%	米中貿易摩擦による中国経済の停滞が、中古建設機械の販売に影響しました。
	工事売上	193	111.8%	東京地区の新光電舎(116%)、関西地区の双葉電気(107%)ともに前期を上回りました。
	(売上高 計)	1,136	106.4%	
売上総利益	他社機レンタル・付帯収入・工事売上の増加に伴い原価が増えたことに加え、前期に引き続き、貸与資産の拡充を進めたことにより資産購入原価が増えたため、粗利益は、前期比103.2%となりました。粗利益率は、36.8%→35.7%と悪化しましたが、次期以降につながる投資が進められたと考えております。			
経常利益	本社ビル買い戻し、川島センター、鉄道九州営業所等社用設備の新設・拡充により、販管費は、前期比105.4%、営業外損益は、前期比マイナスとなり、経常利益は、前期比93.6%となりました。			



■ 貸借対照表 ■



(単位：百万円)

	2018年9月期		2019年9月期		比較 増減 金額		2018年9月期		2019年9月期		比較 増減 金額
	2018年9月末現在		2019年9月末現在				2018年9月末現在		2019年9月末現在		
	金額	構成比	金額	構成比			金額	構成比	金額	構成比	
(資産の部)						(負債の部)					
I.流動資産	9,385	48.7%	8,541	40.2%	△844	I.流動負債	6,954	36.1%	6,464	30.5%	△489
II.固定資産	9,889	51.3%	12,685	59.8%	2,795	II.固定負債	2,602	13.5%	4,706	22.2%	2,103
1.有形固定資産	8,993	46.6%	11,800	55.6%	2,806	負債合計	9,556	49.6%	11,171	52.6%	1,614
2.無形固定資産	73	0.4%	104	0.5%	31	(純資産の部)					
3.投資その他の資産	822	4.3%	780	3.7%	△42	I.株主資本	9,616	49.9%	9,920	46.7%	304
						1.資本金	1,167	6.1%	1,167	5.5%	0
						2.資本剰余金	1,245	6.5%	1,245	5.9%	0
						3.利益剰余金	7,518	39.0%	8,126	38.3%	607
						4.自己株式	△316	△1.6%	△619	△2.9%	△303
						II.その他の包括利益累計額	6	0.0%	4	0.0%	△2
						III.新株予約権	8	0.0%	10	0.0%	2
						IV.非支配株主持分	87	0.5%	120	0.6%	32
						純資産合計	9,718	50.4%	10,056	47.4%	337
資産合計	19,275	100.0%	21,227	100.0%	1,951	負債・純資産合計	19,275	100.0%	21,227	100.0%	1,951
						有利子負債	2,796	14.5%	4,208	19.8%	1,412
						自己資本比率		49.9%	→	46.8%	
						総資産回転率		0.97回	→	0.93回	

(主な増減内訳)

資産

現金・預金の減少
売上債権の減少
貸与資産の増加
社用資産の増加

△283 自己株式取得等により減少しました。
△389 回収条件良化に伴う早期回収により残高が減少しました。
269 引き続き貸与資産の拡充を進めたため、増加しました。
2,537 本社ビル買い戻し、川島センター新設、鉄道九州営業所移転・拡充等社用設備の拡充を進めました。

負債

仕入債務の減少
有利子負債の増加
リース債務の増加

△500 支払条件変更に伴い残高が減少しました。
1,412 既存の社債償還・借入返済、設備投資資金も含め、社債・借入金(3,000)の調達を行いました。
903 貸与資産に加え、川島センター等社用設備のリース調達を計上したため、増加しました。

(単位：百万円)

■ キャッシュフロー計算書 ■



(単位：百万円)

	2017年9月期	2018年9月期	2019年9月期
	2016年10月～2017年9月	2017年10月～2018年9月	2018年10月～2019年9月
	金額	金額	金額
営業活動による キャッシュフロー	774	1,145	923
投資活動による キャッシュフロー	△146	△604	△1,885
財務活動による キャッシュフロー	△480	△387	678
現金・預金残高	2,302	2,455	2,172

(当期の状況)

営業活動CF 貸与資産の取得、仕入債務の減少、法人税等の納付はありましたが、当期純利益、減価償却費増、売上債権の減少により資金増となりました。

投資活動CF 本社ビル買い戻し・川島センター新設等に伴う社用設備取得による支出により資金減となりました。

財務活動CF 有利子負債の返済、配当金支払に加え、自己株式取得による支出がありましたが、社債発行・借入実行により資金増となりました。

■ 売上種別構成比 ■



■53期実績のポイント

- ・オリンピック・パラリンピックを控えた都心部を中心とした建設市場の活性化
- ・活発な再開発事業にともなう建築売上の増加とインフラ整備、災害復旧工事にともなう土木売上の増加

種 別	52期（2018年9月期）	
	売上高（百万円）	売上構成比
建 築	3,772	21.3%
土 木	3,677	20.8%
鉄 道	3,536	20.0%
プ ラ ント	2,438	13.8%
設 備	778	4.4%
中古建機販売	986	5.6%
イ ベ ント	872	4.9%
一 般 産 業	86	0.5%
道 路	24	0.1%
そ の 他	1,514	8.6%
合 計	17,683	100.0%

種 別	53期（2019年9月期）	
	売上高（百万円）	売上構成比
建 築	4,569	24.3%
土 木	4,066	21.6%
鉄 道	3,738	19.9%
プ ラ ント	2,368	12.6%
設 備	968	5.2%
中古建機販売	815	4.3%
イ ベ ント	555	2.9%
一 般 産 業	58	0.3%
道 路	41	0.2%
そ の 他	1,636	8.7%
合 計	18,819	100.0%

マンパワー経営

■ 「マンパワー経営」① ■

● 市場要因

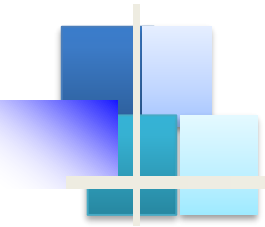
- 建設需給バランスの不均衡化拡大
気象変動等による災害の増加
建築、土木工事の大型化
インバウンド需要拡大
- 建設作業員の減少
- 地域格差
- オリンピック景気
- レンタル資機材の増加

● 社会的要因

- 働き方改革
生産力の確保問題

継続的な成長力を構築

マンパワー経営



■ 「マンパワー経営」② ■

チャレンジ③

1: 「人財育成」への挑戦

2: 「風土革新」への挑戦

3: 「第二の柱構築」への挑戦

■ 建機レンタル会社 参考指標 ■

マンパワーおよび売上高経常利益率総合ランキング

株式 市場名	決算月	会社名	売上高 (百万円)	経常利益 (百万円)	従業員数 (名)	店舗 数 (店)	マンパ ^ワ ー 売上高 (百万円)	マンパ ^ワ ー 売上 順位	マンパ ^ワ ー 経常利益 (百万円)	マンパ ^ワ ー 経常 利益 順位	売上高 経常 利益率	売上高 経常 利益率 順位	順位 ポイント 合計	総合 順位
東証一部	2018年 10月	(株) カ ナ モ ト	113,990	12,971	1,865	195	61.1	1	6.95	1	11.4%	3	5	1
東証一部	2019年 9月	西尾レントオール(株)	94,789	11,179	1,955	231	48.5	4	5.72	2	11.8%	2	8	2
未上場	2018年 10月	ユ ナ イ ト (株)	22,072	1,676	370	47	59.7	2	4.53	4	7.6%	4	10	3
上場廃止	2018年 12月	(株) 共 成 レ ン テ ム	25,479	3,152	650	92	39.2	7	4.85	3	12.4%	1	11	4
未上場	2019年 2月	(株) キ ナ ン	21,444	1,186	371	49	57.8	3	3.20	6	5.5%	8	17	5
未上場	2018年 12月	(株) ア ク テ ィ オ	187,110	12,718	3,961	471	47.2	5	3.21	5	6.8%	7	17	5
ジャスダック	2019年 9月	サ コ ス (株)	16,990	1,230	403	48	42.2	6	3.05	7	7.2%	6	19	7
未上場	2019年 3月	(株) レンタルのニッケン	98,201	7,154	3,074	260	31.9	10	2.33	8	7.3%	5	23	8
未上場	2019年 5月	(株) レ ン ト	33,895	1,686	963	78	35.2	9	1.75	9	5.0%	9	27	9
未上場	2019年 5月	太陽建機レンタル(株)	83,204	2,879	2,140	117	38.9	8	1.35	10	3.5%	11	29	10
ジャスダック	2018年 12月	(株) ニ ッ パ ン レ ン タ ル	7,558	287	246	44	30.7	11	1.17	11	3.8%	10	32	11

※各社については決算短信もしくは各種調査資料により推計した数値です。

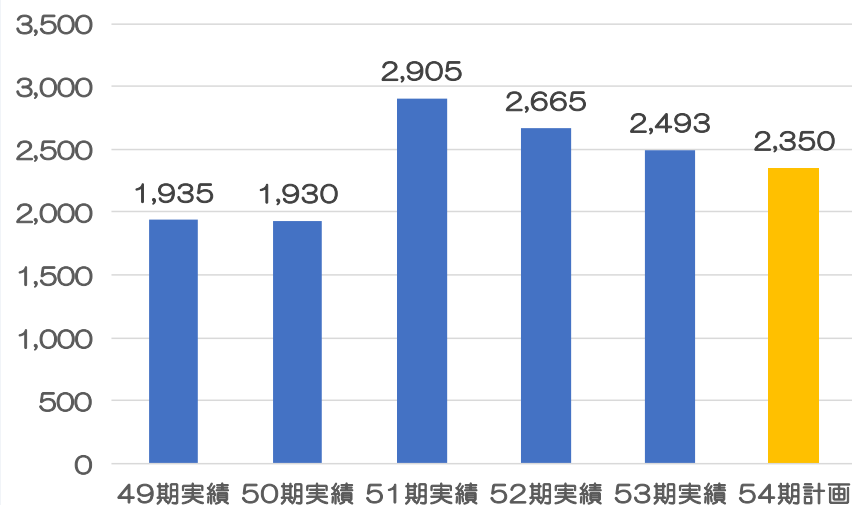
※総合順位は、「マンパワー売上」「マンパワー経常利益」「売上高経常利益率」の順位を合計し、その値の小さい順に並べています。

■ レンタル資産の推移 ■

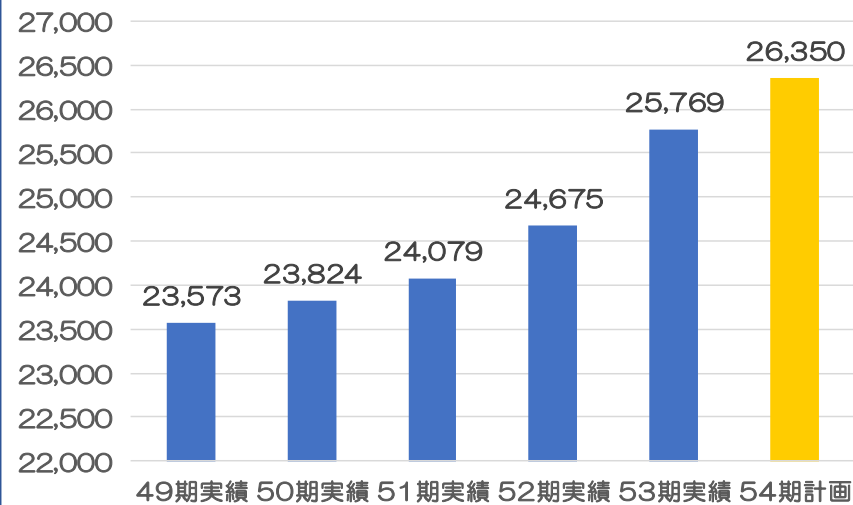
(単位：百万円)

	49期実績 (H27年9月期)	50期実績 (H28年9月期)	51期実績 (H29年9月期)	52期実績 (H30年9月期)	53期実績 (R1年9月期)	54期計画 (R2年9月期)
当期購入額 (レンタル調達含む)	1,935	1,930	2,905	2,665	2,493	2,350
期末保有高	23,573	23,824	24,079	24,675	25,769	26,350

当期購入額

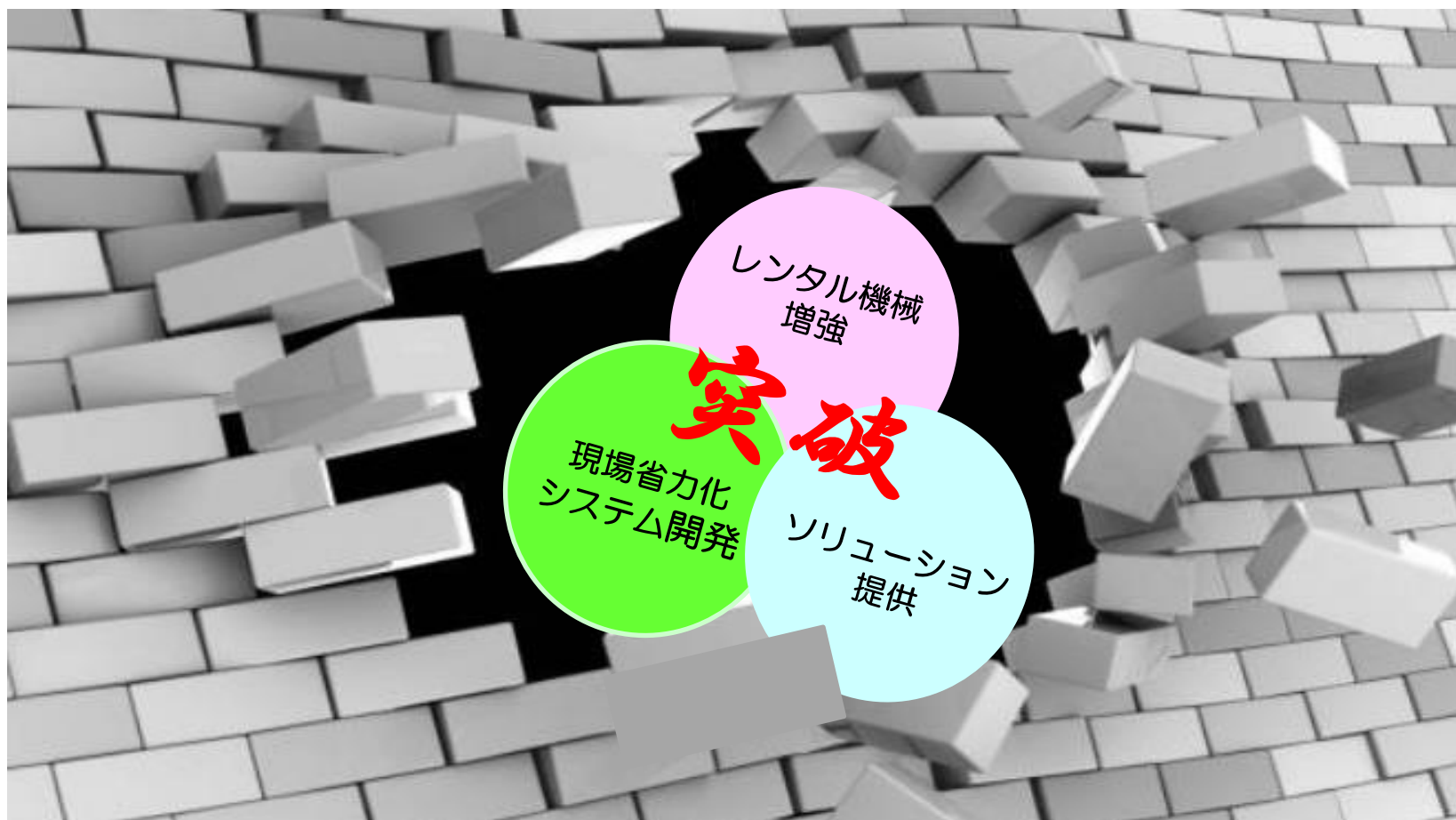


期末保有高



■ ベース事業の基本戦略 ■

3要素に磨きをかけ融合させることで障壁を突破する



■ 基本戦略 ■

建設現場の働き方改革ソリューション

電気工事士

機械知識

システム
エンジニア

IT知識

電気知識



建設機械
整備士

新光電舎
双葉電気

自動化技術支援

レンタル機械管理業務支援

電気工事
子会社連携

城北通信
サービス

情報通信会社
業務提携

技術者
集団

● レンタル機械①（特殊機械の増強）

ターゲットによる拡充と新規導入の継続



スキッドステアローダ



クローラ式多関節型高所作業車



外壁ユニット施工用フロアクレーン



強力吸引作業車スーパーモービル



スーパーデッキモバイルローラー



軌陸クローラクレーン

● レンタル機械②（特殊機械の増強）

国内レンタル第一号機

遠隔解体ロボット ハスクバーナの導入

DXR 140



DXR 140 による屋内解体作業の様子

● レンタル機械③（特殊機械の増強）

敷鉄板用マグネットアタッチメント導入



KMG-200

●現場省力化システム提供

システムソリューション課を新設

その現場の要望を満たすためのご提案とシステムカスタマイズにとどまらず、ソリューション定着から成果を引き出すまでをサポート

MMS
レンタル機械
使用状況管理
のご紹介

Rental machine use situation
management system

上部作業中

ピピッ

お客様の要望を満たすことで進化するシステムの提供を目的としています。

カメレオンコード入退場システム

CCS ~Chameleon code entrance and exit system~

SACOS

iPhoneやiPadアプリで利用



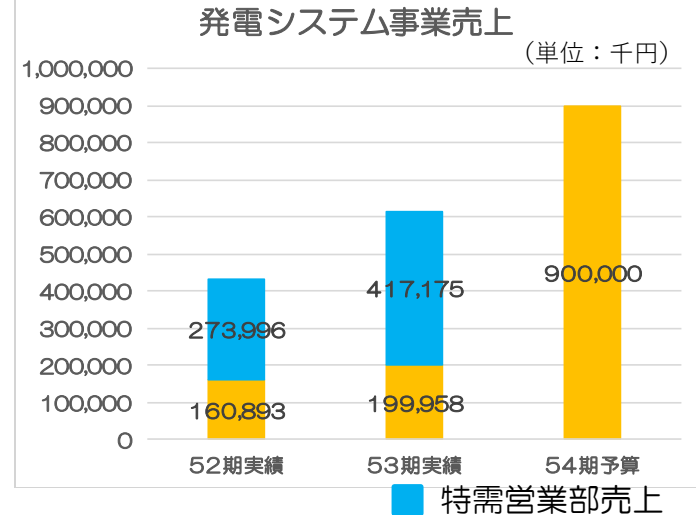
■ 第二の柱構築① 発電システム事業 ■

非常用発電機メンテナンス支援事業

非常用発電機メーカーや
メンテナンス事業者への
大型発電機のレンタルと
仮設電気工事を全国供給



超大型発電機



全国の非常用発電機設置
台数は約20万台にのぼる



東日本営業所東北出張所
12月2日オープン

■第二の柱構築② 羽田空港関連事業■

ふるさと 兵辺公園

昭和島

京浜島 つばさ公園

羽田空港東京店 (京浜島)

空港西IC

整備場

リリーフプレミアム 羽田空港 by RELIEF 空港行きの無料...

穴守稲荷

シアテル羽田

天空

空港中央IC

羽田空港 羽田空港第1ビル

ブルーシール 羽田空港店

羽田空港国際線ターミナル駅

殿町通り

殿町IC

小島新田

羽田空港神奈川店 (殿町) 計画

Google

現在つばさパーキング京浜島にて運営
京浜島にてレンタカー事業開始を予定

つばさパーキングが
エイビス・バジェット
レンタカーFC契約
3月オープンを予定

■第二の柱構築③ キャンパー事業■

B to Cビジネス・インバウンド需要の確立



関東圏42会場



東京オリンピック
パラリンピック需要

キャンパー増強
50台へ大增車

減収額 10億円

増収額 10億円



減収対策

- 働き方の見直し
- 整備原価見直し
- 経費見直し

増収対策

- オリパラ需要
- インバウンド需要
- レンタル資産販売

各種政策にてイーブンを目指す

■ トピックス ■

鉄道営業部九州営業所オープン

佐賀県神埼郡吉野ヶ里町吉田78-1



長崎本線

■ 投資政策 ■

自己株式取得

- 1億円の市場買付

整備拠点のリニューアル

- 生産性と効率性の向上
- 従業員満足度の向上

親和性を重視したM&A投資

- 自動車整備事業、電気工事業
前向きに検討

■ 当社基本データ ■



商 号 : サコス株式会社 (SACOS CORPORATION)
本社所在地 : 〒141-0022 東京都品川区東五反田4-5-3
設 立 : 昭和42年9月8日 (西暦1967年)
資 本 金 : 1,167,551,500円(令和元年9月30日現在)
発行済株式総数 : 43,866,681株(令和元年9月30日現在)
主な事業内容 :
1.機械・機器のレンタル
2.機械・機器等の販売

役員 :	取締役会長	西尾 公志 (ニシオ マサシ)
	代表取締役社長	瀬尾 伸一 (セオ シンイチ)
	常務取締役	石川 忠 (イシカワ タダシ)
	取締役	夏目 正治 (ナツメ マサハル)
	取締役	外村 圭弘 (トノムラ ヨシヒロ)
	社外取締役 (独立役員)	一樂 毅 (イチラク タケシ)
	監査役	岡村 克昭 (オカムラ カツアキ)
	社外監査役 (独立役員)	古田 茂 (フルタ シゲル)
	社外監査役 (独立役員)	荒牧 知子 (アラマキ トモコ)